

<平成 26 年度春季大会ミニシンポジウム企画案>

データ高回収率を実現するバイオリギングシステムの構築 ～魚類の個体群・群集ダイナミクス解明に挑む～

日時・場所：平成 26 年 3 月 31 日（月）9：00～12：30・第〇会場ー

企画責任者：宮下和士（北大フィールド科セ）・北川貴士（東大大気海洋研）・宮本佳則（海洋大）・
荒井修亮（京大フィールド研セ）

9:00～ 9:05	開会の挨拶		宮下和士（北大フィールド科セ）
9:05～ 9:20	趣旨説明		宮下和士（北大フィールド科セ）
		座長	荒井修亮（京大フィールド研セ）
9:20～ 9:45	1. 小型データロガーの開発		白川北斗（函館水産海洋推進機構）
9:45～10:10	2. 双方向通信システムの開発		三田村啓理（京大院情報学研究科）
10:10～10:35	3. マルチプラットフォーム対応受信機の開発		宮本佳則（海洋大）
10:35～10:50	休 憩		
		座長	宮本佳則（海洋大）
10:50～11:10	4. データ回収ネットワークの構築		北川貴士（東大大気海洋研）
11:10～11:30	5. 開発に係るボトルネックー開発企業の立場から 1ー		笹倉豊喜（㈲フュージョン）
11:30～11:50	6. 開発に係るボトルネックー開発企業の立場から 2ー		新家富雄（㈱アクアサウンド）
		座長	宮下和士（北大フィールド科セ）
11:50～12:25	総合討論		
12:25～12:30	閉会の挨拶		荒井修亮（京大フィールド研セ）

企画の趣旨

海洋生態系全体の定量的・動的な側面の精確な理解には、系を構成する魚類など高次捕食者の広域かつ立体的・能動的移動，行動生態を定量的に計測することが必須となる。しかしながら現状では様々な要因がボトルネックとなり，特に魚類の個体群・群集の定量的計測は困難を極める。

そこで本シンポジウムではバイオリギングに着目し，水産資源としても重要である魚類の，特に外洋域での個体群・群集ダイナミクスの解明のための定量的計測手法の構築の可能性について議論することを目的とする。尚，本企画は JST CREST 事業によるものである。